



ついにA級入り、ルパンと師岡!

苦節6年、万年B級組を脱出、悲願の初V

河津桜が咲き始め春の到来を感じさせる2月14日(日)、板橋平和公園で第2回練板マスターズを開催した。本当に強い人は誰か、一日で総当り戦をやればおのずと答えがでる。そう考えて始まった練板マスターズだが、第2回目で出た答えは想定外なものだった。

中途半端に終了した第1回の反省に立ち、子連れ狼・サークル方式で臨んだ今回の大会は3時前に終了、余裕の大会運営となった。さて大会のほうは、ちょうど半分終わった時点で、どうやらルパン師岡がトップらしいという噂が流れる。それを追うのが Mr.高橋と夢宙人田口、それにカズコ、シチダイ親子、コースケもいいらしい。何しろ集計をしていないので、事の真偽がハッキリしないのだ。前半であきらかに近い人もチラホラ出るが、後はどこまで出来るか楽しめばよいのだ。

後半に入り淡々と対戦が続く、あっちでワイワイ、こっちでキャーキャー騒いでいるが、みんな自分のことで精一杯だ。そんな中大きな歓声がある。マコト・ギャオスコンビから、ミスターが連続オカマ勝ちしたのだ。それを見た岩ガンが腹を抱え笑い転げる。ミスターも笑いが止まらない。何たって二人から15点もらったんだから。意気消沈の二人は消え入りそう。そんなこんなで全ての対戦が終了する。

するとやはり噂通り、ルパン師岡が87点でトップだ。アベレージは3.22、6点はないが0点もない。爆発力もないが取りこぼしもない、無難に崩れることなく最後まで持続した、そんな結果だ。「平均で3点とれば優勝圏内。」そう心に決め臨んだ大会だ。「ミスターと引き分けた(3点ずつ)のが大きかった。」。予選は強いが決勝はダメ、そんなルパンが長く苦しかったB級を脱し、念願のA級入りを果たした。最後まで予選のようなこの大会、一発勝負に弱いルパンには向いているのかも。

子ども王はコースケ、女流はカズコさんだ

成増コースケが72点、全体でも4位で子ども王を獲得した。昨年のNIB以来、2度目の栄冠だ。女流王はカズコさん、こちらも72点、全体で4位の好成績での初栄冠だ。総当り戦でこの成績は二人とも素晴らしい。自力がついてきた証拠だな。



カズコさん、ルパン、コースケ おめでとう!



名人戦2月場所は

まみいと伊佐Pがトップ

スタートダッシュが勝負を決するのはいうを待たない。それが長期戦の鉄則だからだ。なかでも大事なのはアベレージ、その意味でまみいと伊佐Pの平均3.17はいいスタートだ。逆に同じ1位でも松ちゃんの2.38、4位ギャオスの2.25は先が思いやられる。序盤とはいえ気を抜いたらおしまいだぞ。